

No.	カリキュラム名	研修日 (13:00受付、13:30～17:30研修)	研修会場	研修の狙い	受講のゴール	受講対象者	研修カリキュラム
01	SIERに必要な簿記仕訳の知識 (日商検定初級レベル)	2017/07/03(月) 2018/03/12(月)	秋葉原ビタス本社 秋葉原ビタス本社	今日、会計情報システムは、パッケージソフトの適用が100%近く進む中でこの領域でのSEの簿記会計の知識はあまり求められないかも知れません。しかし、販売・仕入など基幹システムSEには、取引情報をどのような複式簿記による仕訳で会計情報システムに連携するかは、基幹システムの開発過程やテスト段階で必須要件となります。本講座では、基幹系SEにこそ必要となる最小限の簿記のスキルをつけて頂きます。	本講座では、基幹系ソリューションに従事するSEを対象に、取引類型に対応する会計情報連携のための仕訳が生成できるスキル確立を目的としています。	基幹系等システム担当S E、プログラマーで簿記会計初学者を対象としています。	1. 複式簿記の仕組みを納得するための西洋経済史と簿記一連の記憶手続 2. 仕訳を生成すべき基幹系取引の種類と会計上の認識・測定要件 ①売上関連 ②売上控除(返品、割戻など)取引関連 ③購買(仕入)関連取引 ④棚卸資産・在庫異動、製造原価計上関連取引 ⑤債権管理関連取引 ⑥債務管理関連取引 ⑦固定資産関連取引 ⑧経費関連取引 ⑨消費税関連取引 ⑩給与関連取引 ⑪収益と費用を対応させる仕訳類型など 3. 仕訳帳、総勘定元帳、試算表、貸借対照表、損益計算書の作成プロセス 4. その他関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
02	営業に必要なIT投資効果分析	2017/07/05(水) 2018/02/06(火)	秋葉原ビタス本社 NJC本社西新宿5丁目	ICT提案活動においては、顧客における経済的導入効果の説明を求められるケースが多くなっています。営業職においては、如何に定量効果を明確に訴求するか受注の重要成功要因となるが、これを的確に算定できるプロセスやスキルを持たないケースが散見される。本研修では、営業職、コンサルタントの方に具備して頂きたいICT投資効果の算定手法を学習していただきます。	(1)企業や顧客の有形・無形資産である情報資産の分類方法や資産価額、費用の算定方法、 会計基準、税法規定を修得する。 (2)業務ソフトや関連ICTの支援対象業務プロセスを明確にし、システムが、どの視点で対象業務に、どう貢献しているのかをランク付けし評価する手順を学習する。 (3)業務ソフトやICTの支援業務プロセスの貢献度と、支援業務プロセス自体の重要性から、改修や再構築の優先度をランクつける手法を学ぶ。以上の知見から、顧客に対して説得力ある経済的導入効果を提案できるようにします。	ソリューションの提案活動に携わる営業職、コンサルタント、システム技術職の方	1. ICT資産およびコストの分析手法 (1)ユーザ企業のICT資産/コストマネジメントの視点 (2)事業者におけるICT資産/コスト評価の必要性 (3)バランストスコアカード理論(BSC)による実践的なICT投資効果評価モデル (4)提案に活用したいICT投資をしない場合の損失評価アプローチ (5)ICTコスト診断と手順 (6)ICTコストマネジメント 2. ソフトウェア資産の会計・税務処理概要 (1)ICTの資産計上か費用計上かの分岐点 (2)自社開発ソフトウェアの会計処理 (3)請負開発ソフトウェアの会計処理 3. ICTの節税要件 4. 工事進行基準と完成基準 5. ICT投資の回収視点と回収CF計算 6. DCF法による投資回収分析の手法 7. その他関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
03	基幹系取引の財務会計/管理会計への連携要件	2017/07/10(月) 2018/01/16(火) 2018/02/26(月)	秋葉原ビタス本社 「NECソリューションイノベータ 新木場センタービル 3F-F教室」 (特定企業受講) NJC本社西新宿5丁目	今日、会計情報生成の多くは、自動化が進み、一般に自動仕訳といわれている。自動仕訳は1970年代から適用が始まっており、決して新しい仕組みではないが、昨今では、会計基準の国際化が進み収益や費用の認識、測定基準が見直されることが多い。また、管理会計の普及に伴い、制度会計に因わない管理会計目的の仕訳情報生成が基幹情報システムに要求されるケースも生じてきている。自動仕訳生成は、単に仕訳パターンを作成し、マスに登録すればよい問題ではなく、そのような仕訳を自動生成する基幹情報要件の定義とシステムの再構築が求められることとなる。	本講座では、基幹関連SEを対象に取引類型に対応する自動仕訳の類型的な基本的な知見を確立していただくことを目的としている。	・販売、購買・仕入、在庫管理等、基幹系システム開発担当システム技術職の方 ・経営管理系システム開発担当システム技術職、コンサルタントの方	1. 自動仕訳を生成すべき、基幹取引の種類と会計上の認識・測定要件 (1)売上関連 (2)売上控除関連 (3)購買(仕入)関連 (4)棚卸資産・在庫異動、原価計上関連 (5)債権管理関連 (6)債務管理関連 (7)固定資産関連 (8)経費関連 (9)消費税関連 (10)給与関連 (11)収益と費用を同時に対応させる仕訳類型など 2. 連結取引の仕訳類型 3. 管理会計に適用する仕訳類型 4. その他関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
04	管理会計の定石とBI活用	2017/07/18(火) 2017/12/15(金)	秋葉原ビタス本社 秋葉原ビタス本社	企業において必要となる管理会計は企業や業種業態によって多様な要件が求められるとされるが、営利企業であれば必ず必要とされる共通の視点や基本的なKPIがある。本研修では開発期間を短縮するためにも定石となる基本的な要件を学習して、効率の良い開発プロセス推進の基盤的知識を習得していただきます。  中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。	多様な要件があると言われる管理会計へのニーズの中でも営利企業であれば共通要件とされる視点や指標を習得する。	経営管理系情報システムの開発担当者	1. 企業価値と構成要素 2. 企業価値を構成するキャッシュフロー方程式とBIでの活用視点 3. 企業価値・キャッシュフロー向上のためのビジネスプロセスの規範 4. ビジネスプロセス別のKPI可視化とBI活用視点 5. 企業価値のKGIとビジネスプロセスのKPIとの関係性体系化 6. BI活用による事業環境の変動要素と企業価値へのインパクト可視化 7. その他関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。

05	ビジネス会計の基礎知識	2017/07/25(火)	NJC本社西新宿5丁目会場	<p>本研修講座は、SIベンダーおよびユーザー企業の幅広い業務担当者の方々に、ビジネスで必要とされる会計の基礎知識を学習して頂きます。</p> <p>汎用性を高めるため教材は、大阪商工会議所刊行によるビジネス会計検定試験の公式テキスト3級と講師開発の固有教材を併せて学習して頂きます。</p> <p>中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。</p>	<p>(1)企業の財務諸表を読める視点を持てるようになる。</p> <p>(2)様々な企業活動の成果が、どのような取引の経済効果認識と価値基準で、財務会計に情報として集約されるのかの基礎的な体系を習得することができる。</p> <p>(3)企業価値を向上するための事業活動の成功要因を体系的に認識することができる。</p> <p>(4)ビジネス会計検定試験や財務会計に関連する各種資格試験等を学習ツールとして職業生活を通して効率的に学習していく道筋を会得できる。</p>	<p>・SI企業の、営業、ソリューション販売促進、ビジネス業務システム開発担当者</p> <p>・ユーザー企業のシステム開発担当者</p> <p>・基礎的な経理知識が必要とされる民間企業の幅広い職務階層の方々</p>	<p>1. 会計の基本的プロセスと財務諸表</p> <p>2. 貸借対照表の機能</p> <p>3. 資産とは、資産の評価基準</p> <p>4. 負債とは、負債性引当金とは</p> <p>5. 純資産とは、純資産の構成要素</p> <p>6. 損益計算書の機能と貸借対照表との機能連携</p> <p>7. 純資産と利益の関係</p> <p>8. キャッシュ・フロー計算書の特徴</p> <p>9. キャッシュ・フロー計算書は貸借対照表・損益計算書の情報を統合しているわけ</p> <p>10. 経済活動をキャッシュ・フローで計算する訓練</p> <p>11. 利益が出てもキャッシュ・フローで破たんするとは？</p> <p>12. 財務諸表分析</p> <p>13. その他関連事項</p> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
06	ビジネス会計の上級知識(連結会計ベース)	2018/02/02(金)	「NECソリューションイノベータ 新木場センタービル 3F-F教室」(特定企業限定受講)	<p>本研修講座は、SIベンダーおよびユーザー企業の幅広い業務担当者の方々に、会計の基礎知識から一歩進んで連結決算ベースでの実践的な知識を学習して頂きます。</p> <p>汎用性を高めるため教材は、大阪商工会議所刊行によるビジネス会計検定試験の公式テキスト2級と講師開発の固有教材を併せて学習して頂きます。</p> <p>中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。</p>	<p>(1)グループ企業の連結財務諸表をより実践的な視点で読めるようになる。</p> <p>(2)様々な企業活動の成果が、どのような取引の経済効果認識と価値基準で、財務会計に情報として集約されるのかの基礎的な体系を習得することができる。</p> <p>(3)企業価値を向上するための事業活動の成功要因を体系的に認識することができる。</p> <p>(4)ビジネス会計検定試験や財務会計に関連する各種資格試験等を学習ツールとして職業生活を通して効率的に学習していく道筋を会得できる。</p>	<p>・SI企業の、営業、ソリューション販売促進、ビジネス業務システム開発担当者</p> <p>・ユーザー企業のシステム開発担当者</p> <p>・基礎的な経理知識が必要とされる民間企業の幅広い職務階層の方々</p>	<p>連結決算を実施する企業グループの</p> <p>1. 会計プロセスと連結財務諸表</p> <p>2. 連結貸借対照表の読み方</p> <p>3. 連結損益計算書の純資産の構成要素</p> <p>4. 連結損益計算書の機能と読み方</p> <p>5. 連結キャッシュ・フロー計算書の特徴</p> <p>6. 連結財務諸表分析</p> <p>7. その他関連事項</p> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
07	給与計算の基礎知識	2018/02/13(火)	NJC本社西新宿5丁目会場	<p>企業の人事システムの中核となる給与計算と関連する所得税・社会保険・労働保険・マイナンバーの取扱等について評価の高い規範性がある日本能率マネジメントセンター刊行、給与計算実務能力検定2級公式テキストを使用して基礎的な学習をして頂きます。</p>	<p>人事系ソリューションの営業職、システム導入担当技術者が、顧客の給与計算業務を理解し、提案やインプリメンテーションが実施できるエンドユーザーの業務制度の理解力を獲得して頂きます。</p>	<p>人事系ソリューションの営業職、システム導入担当技術者</p>	<p>市販テキストを使用して学習して頂きます。</p> <p>1. 給与計算のしくみ</p> <p>2. 出勤日数、労働時間、休暇、時間外労働の知識</p> <p>3. 割増賃金の知識</p> <p>4. 社会保険料、所得税等控除計算の知識</p> <p>5. 社会保険の手続き</p> <p>6. 年末調整の知識</p> <p>7. その他の関連知識</p> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
08	ソフトウェア会計の知識	2017/10/31(火)	「NECソリューションイノベータ 新木場センタービル 3F-F教室」(特定企業限定受講)	<p>会計上無形固定資産となるソフトウェアの会計・税務上の知識を学習して頂きます。システム技術職の方でも、情報投資の有効性を測る場合は、ソフトウェア会計や税務の知識は必須要件です。</p>	<p>既存の情報資産やこれから開発・導入を企画するソフトウェア資産について会計・税務上の位置づけと価値評価を明確にし、的確な導入効果を測定評価できるようにする。</p>	<p>情報システム部門管理者、ICTベンダーで顧客にソリューション商品の導入価値を訴求する必要がある営業、販売職。</p>	<p>1. ICTの資産計上か費用計上かの分岐点</p> <p>2. 自社開発ソフトウェアの会計・税務処理要件</p> <p>3. 請負開発ソフトウェアの会計・税務処理要件</p> <p>4. ICTの節税要件</p> <p>5. 工事進行基準と完成基準の要件</p> <p>6. その他関連事項</p> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
09	キャッシュフロー経営管理の知識	2017/07/28(金) 2017/09/19(火) 2018/02/27(火)	秋葉原ヒクタブ本社 秋葉原ヒクタブ本社 「NECソリューションイノベータ 新木場センタービル 3F-F教室」(特定企業限定受講)	<p>キャッシュ・フロー計算書は貸借対照表や損益計算書の情報もすべて含んでいる会計情報唯一の統合データベースです。経営面では、従来の会計上の利益・損益計算書から、キャッシュ・フロー獲得指向による経営のスピードアップや資産回転向上を重視する経営スタイルに変革することができる経営革新のKGIでもあります。</p> <p>本研修では国際標準な指標である「企業価値」の測定基礎となるキャッシュ・フロー計算を遅延して頂き、キャッシュ・フロー指向の業務プロセス設計と情報システム化要件、KPIが設計できるスキルを修得して頂くことを目的とします。</p> <p>中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。</p>	<p>国際標準な指標である「企業価値」の測定基礎となるキャッシュ・フロー方程式が理解でき、業務設計と情報システム化要件、KPI指標が設計できるスキルを修得して頂く。</p>	<p>職種を問わず、どうもキャッシュ・フロー計算がわからないという方、</p> <p>利益を主体とした業績管理と何が違うのかよくわからないという方、</p> <p>社内でキャッシュ・フローをどう説明したらよいかわからないという方、</p> <p>またキャッシュ・フロー管理を実践するために、現状のシステムからどのようなデータを収集し、どのような指標を使ったらよいか分からないという方に、1日受講されることをお勧めします。</p>	<p>1. キャッシュ・フロー計算</p> <p>(1)キャッシュ・フロー計算の目的</p> <p>(2)企業価値と一体フリーキャッシュ・フロー</p> <p>(3)キャッシュ・フロー計算書は貸借対照表も損益計算書も含んでいる</p> <p>財務会計情報の統合データベースである。</p> <p>(4)直接法と間接法のちがいと関係理解</p> <p>(5)キャッシュ・フロー計算書の作成演習</p> <p>2. 経営管理へのキャッシュ・フロー計算の活用</p> <p>(1)経営に役立つキャッシュ・フロー方程式(管理会計)と使い方</p> <p>(2)制度会計のキャッシュ・フロー計算書はなぜ役に立たないのか</p> <p>(3)キャッシュ・フローの作り方</p> <p>(4)経営の打ち手が増えるキャッシュ・フロー方程式(事例)</p> <p>(5)キャッシュ・フローとリードタイム短縮は表裏一体</p> <p>(6)SCMとキャッシュ・フローは表裏一体</p> <p>(7)キャッシュ・フローで測るべきIT投資効果</p> <p>(8)キャッシュ・フロー経営の2大成功要因</p> <p>(9)キャッシュ・フロー分岐点の計算方法</p> <p>(10)キャッシュ・フロー指向の予算編成とは</p> <p>(11)資金繰り予定に役立つキャッシュ・フロー計算</p> <p>(12)利益とキャッシュ・フローのマトリクスによる業績管理</p> <p>(13)KGIであるキャッシュ・フローから展開するKPI(事例を中心に)</p>

10	グループ経営管理の定石	2017/10/10(火) 2018/04/19(金)※未 定	「NECソリューションイノベータ 新木場センタービル 3F-F教室」 (特定企業限定受講) 「NECソリューションイノベータ 新木場センタービル 3F-F教室」 (特定企業限定受講)※未 定	中堅以上の企業の大多数がグループ組 織で経営を展開する今日において、 経営管理の業務プロセスはグループ組 織を前提として要求、要件を定義して いかなければならないと思われます。 企業によって、ビジネスモデルは様々で すが、グループ経営管理には規範的な共通 要素があります。 本講では、必須知識としてのグループ経 営管理の規範的な要件を学習して頂き、 その知識をベースに企業グループや事 業グループ個々の経営管理プロセスや情報 システムの 構築にあたって頂く見聞を初学者に習 得して頂きます。	企業によって、ビジネスモデルは様々である が、多様性の中にも営利企業体として グループ経営管理に共通な機能要件を修得 して頂く。	(1)ソリューションの提案活 動に携わるベンダーの営業職、 コンサルタント、システム技術職 の方 (2)ユーザとして、組織拡 大の中におけるグループ経営管 理システムの構築にあたる 経営企画部門等の方々	1. 経営管理システムにおけるグループ経営組織の定義の 仕方 (1)事業セグメント視点でのグループ経営組織定義 (2)業種セグメント視点でのグループ経営組織定義 (3)市場・顧客セグメント視点でのグループ経営組織定義 (4)機能セグメント視点でのグループ経営組織定義 2. 経営管理業績、財政状態に関する開示規則 (1)セグメント開示制度の基礎 (2)セグメント開示に対応する経営管理情報要件定義 3. グループ経営管理の会計制度 (1)連結会計の基礎知識 (2)企業結合会計の知識 (3)移転価格税制の知識 4. カンパニー副会計の機能要件 (1)カンパニー副会計における組織業績責任の特徴 (2)カンパニー副会計制度の要件 5. グループシェアード会計の業務要件の基礎知識 (1)グループシェアード会計のシステム事例と機能要件 6. グループキャッシュマネジメントの基礎知識 (1)グループキャッシュマネジメントのねらい (2)グループキャッシュマネジメントシステムの機能要件 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
11	固定資産と減価償却の基礎知識	2017/10/03(火) 2018/03/06(火)	NJC本社西新宿5丁目会場 「NECソリューションイノベータ 新木場センタービル 3F-Bf教室」 (特定企業限定受講)	固定資産と減価償却に関する基礎的な 知識を体系的に学習して頂き、 固定資産関連のソリューションに対応で きる基礎を習得して頂きます。	固定資産の種類と価値の異動、減価償却計 算の基礎を身につけて頂きます。	固定資産管理に関連するソ リューションのSE、プログラマー、 パッケージ販売担当営業要員の の方々	1. 有形固定資産会計 2. 無形固定資産会計 3. リース資産会計 4. 資産除去債務 5. 減損会計 6. 減価償却計算 7. 主要なIFRSへの対応課題 8. その他関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。
12	製造原価計算の必須知識 ~IoTの活用による精度向上期待~ (全経工業簿検定レベル)	2017/08/21(月) 2017/10/13(金) 2017/12/11(月)	NJC本社西新宿5丁目会場 秋葉原ヒクダス本社 秋葉原ヒクダス本社	会計は、企業の財政状態と経営成績を 理解する経営管理プロセスですが、 製造原価計算は、製品単位の利益を明 らかにするプロセスです。 製品の利益を知らずして製造業の経営 は成り立ちません。 本講座では、原価計算基準に基づい て、製品の利益を計算する規範的なプロセス を学習します。 また教材は最も規範的で難解でない全 経工業簿記検定試験1級教材使用して受験 にも 役立つオーソドックスな市販テキストとポ イントを突いた講師のオリジナルテキストを使 用します。 中小企業診断士試験等の受験にも有 効性の高い研修講座です。	(1)製造原価計算の現状&必須知識に必 要な業務体系が確立している (2)製造原価計算のヒヤリングがヒヤリングリ ストで進められる (3)営業訪問の過程で、提案までに必要な 現状&必須知識の項目が把握できている (4)製造原価管理の必須知識に対応する提 案製品機能の対応が確立している (5)知識の体系化を図るため、全経工業簿 記1級受験を推奨し合格水準獲得を目指す	・原価計算業務に携わる ユーザ企業の担当者 ・企業の経営管理、経営企 画に携わる担当者 ・原価計算システム開発に 携わるSI企業のシステム技術者 ・工業簿記、原価計算関連 資格試験受験志望者	1. 製造原価計算の機能体系 2. 製造原価計算の5つの目的 3. 製造原価計算の全体像 4. 製造原価報告書 5. 材料費計算 6. 労務費計算 7. 外注費計算 8. 直接経費とは 9. 製造間接費計算とIoTの活用 10. 個別原価計算 11. 総合原価計算 12. 標準原価計算 13. 原価差異の期末処理 14. 直接原価計算 15. 直接原価計算 16. 製造原価計算と財務会計連携 17. 購買・生産管理と原価計算連携 18. 製造原価計算チェックリストの使い方 19. その他関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。 ※講師著作「キャッシュフロー生産管理」をテキストに使用しま す。

13	生産管理の必須知識	2017/09/01(月) 2017/10/17(火)	NJC本社西新宿5丁目会場 秋葉原ビクター本社	<p>生産管理ソリューションの新規構築、再構築、業務革新、基盤整備などのプロジェクトを牽引していくに参考となる知見獲得を狙っています。</p> <p>中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。</p>	<p>(1)生産管理の現状&amp;要求分析に必要な基本的業務知識が習得される</p> <p>(2)生産管理業務の調査事項がヒヤリングリストで理解できる。</p> <p>(3)システムベンダーの営業訪問の過程で、ユーザへの提案までに必要な現状&amp;要求分析の基本的事項が把握できる</p> <p>(4)生産管理の要求分析に対応するソリューションの基本的要件を習得する</p> <p>(5)製造活動の視点別の基本的なKPIが理解でき提案に活用できる</p>	<p>生産管理ソリューション営業担当者、システム開発およびソリューション導入担当SE</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生産管理の機能体系</li> <li>生産計画機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>研究開発</li> <li>設計・開発</li> <li>原価企画</li> <li>需要予測</li> <li>基準生産計画</li> <li>基準情報管理</li> <li>資材管理</li> <li>購買管理</li> <li>外注管理</li> <li>在庫管理</li> <li>労務管理</li> </ol> </li> <li>生産コントロール機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>工程管理</li> <li>品質管理</li> <li>TQM</li> <li>品質保証活動</li> <li>設備管理</li> </ol> </li> <li>生産情報システムの用語の知識 <ol style="list-style-type: none"> <li>全体像</li> <li>需要予測</li> <li>MRP</li> <li>CAD, CAM, CAE, CAT, PDM</li> <li>MES</li> <li>スケジューラ</li> <li>ERP</li> <li>SCM, SCP</li> <li>IoT</li> </ol> </li> <li>その他関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。 ※講師著作"キャッシュフロー-生産管理"をテキストに使用します。</li> </ol>
14	在庫管理の必須知識	2017/09/05(火) 2017/10/24(火)	秋葉原ビクター本社 秋葉原ビクター本社	<p>在庫管理は、物販、モノづくりの基幹業務に欠かせないコア業務プロセスで、販売管理、購買管理、生産管理、サプライチェーンマネジメント、経理財務の中核となる業務機能で、サプライチェーンの潤滑油と言われます。本講座では、在庫管理の管理サイクルを学習し、業務改善や製販基幹システムを担当する方のスキル基盤を確立するための研修を実施します。</p> <p>中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。</p>	<p>(1)在庫管理の現状&amp;要求分析に必要な業務体系が確立している</p> <p>(2)在庫管理のヒヤリングがヒヤリングリストで進められる</p> <p>(3)営業訪問の過程で、提案までに必要な現状&amp;要求分析の項目が把握できている</p> <p>(4)在庫管理の要求分析に対応する製品機能の対応が確立している</p> <p>(5)在庫管理の視点別のKPIが理解でき提案できる</p> <p>(6)棚卸日数などKPIによる定量効果が算定できる</p>	<p>販売管理、生産管理・購買管理、経理業務など一連のサプライチェーンマネジメントに携わるユーザ企業全般の担当者、システム開発担当者、業務管理者、SIベンダーの営業担当者、システム開発担当者に受講を推奨します。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>在庫管理の機能体系</li> <li>SCMにおける在庫管理の意義</li> <li>戦略視点での在庫の種類</li> <li>最適在庫と発注量決定</li> <li>不定期在庫補充管理</li> <li>定期在庫補充管理</li> <li>経済的発注量の考え方</li> <li>最適在庫量の決定</li> <li>有効在庫管理</li> <li>SCMにおける在庫ポイントの決定</li> <li>在庫管理の機能要求分析 <ol style="list-style-type: none"> <li>受注プロセス連携</li> <li>売上プロセス連携</li> <li>発注プロセス連携</li> <li>購買プロセス連携</li> <li>生産プロセス連携</li> <li>移動プロセス連携</li> </ol> </li> <li>在庫管理の会計知識 <ol style="list-style-type: none"> <li>棚卸資産の定義</li> <li>購入品の取得価額</li> <li>生産品の取得価額</li> <li>在庫払出原価計算の種別</li> <li>連結決算上の棚卸資産評価の決定</li> <li>複数在庫拠点移動における在庫原価管理</li> </ol> </li> <li>棚卸資産の評価管理制度</li> <li>在庫効率指標</li> <li>在庫管理と内部統制</li> <li>その他関連事項 ※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。 ※講師著作をテキスト"キャッシュフロー-生産管理"を使用した</li> </ol>

15	基幹系・管理系のKGI/KPIの定石と要件定義	2017/10/27(金)	NJC本社西新宿5丁目会場	<p>基幹系・管理系を統合した全企業、事業レベルでのKGIから、ビジネスプロセスレベルでの有効性を評価するKPIまでの構成を要件定義できるように規範的なモデルベースで基礎知識を学んで頂きます。</p> <p>中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。</p>	<p>基幹系・管理系を統合した全企業、事業レベルでのKGIから、ビジネスプロセスレベルでの有効性を評価するKPIまでの構成を要件定義できる基本的な視点と指標による定義力身に付けて頂く。</p>	<p>経営管理系ソリューションに従事するシステム技術職の方、BIなど経営管理系ソリューションの営業職の方</p>	<p>1. KGI, KPIの活用目的 (1)KGI, KPIの活用目的 (2)KPIの一般的な展開構造 (3)KGI, KPIの設計要件 (4)KPI設計上考慮すべきSEGキーや統計項目 (5)KGI/KPI向上に直結する事業活動の主要成功要因例示</p> <p>2. KGI, KPIの類型 (1)KGIから財務視点のKPI展開 (2)KGIから非財務・活動視点のKPI展開 (3)BSCによる財務視点のKGIと非会計情報のKPI連携方法</p> <p>4. サプライチェーンのKPI 5. 生産プロセスのKPI 6. 物流プロセスのKPI 7. その他関連事項</p> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。 ※講師著作「キャッシュフロー生産管理」をテキストに使用します。</p>
16	製造業の管理会計定石	2017/11/10(金)	秋葉原ビクター本社	<p>製造業で規範的に使用されている製造原価や在庫情報にもとづく管理会計の基本的な視点や指標を学習して頂きます。</p> <p>経営管理系の提案やソリューション開発プロジェクトにも活用したい内容が習得出来ます。</p> <p>中小企業診断士試験等の受験にも有効性の高い研修講座です。</p>	<p>製造業で規範的に使用されている原価/在庫情報にもとづく管理会計の視点や指標を習得して頂きます。</p>	<p>製造業の基幹系、管理系ソリューションを担当する営業職やシステム技術職の方々</p>	<p>1. “儲かる”とは(企業価値、FCF、ROAで定義する) 2. “儲ける”要素を、フリーキャッシュフロー(FCF)から展開 3. “儲ける”要素を、ROAから展開 4. “儲けるか”のための原価管理の要件例示 5. 製品利益をどの範囲まで評価するか 6. 製品MIXの得失と原価情報活用 7. ロス収集要素と要因可視化 8. 原価差異でロスを構造化し、担当部署責任明確化 9. 操業度差異の可視化と活用 10. 製品価値向上のための現製品の原価管理・ 11. 材料費変動要素可視化 12. 企業価値と現業の目標とを紐づける 13. 製造間接費の製品配賦と製品利益評価 14. 原価シミュレーションの要件 15. その他関連事項</p> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。 ※講師著作「キャッシュフロー生産管理」をテキストに使用します。</p>
17	顧客情報管理の知識	2017/09/15(金) 2017/11/14(火)	「NECソリューションイノベータ 新木場センタービル 3F-F教室」 (特定企業限定受講) NJC本社西新宿5丁目会場	<p>グローバル化が進む中で与信管理や顧客情報管理の内容も変化しています。 今日的な視点で顧客情報管理の要件を見直します。</p>	<p>顧客ソリューション向上に有効なデータモデルと取引管理のKPIが設計できる。</p>	<p>顧客情報管理ソリューションのシステム開発技術者</p>	<p>1. マーケティングに有効な引合・見積プロセス情報 2. 見積・受注・販売プロセスのリスクヘッジに有効な与信管理プロセスの要件 3. 販売履歴管理の要件 4. CRMの機能要件 5. その他関連事項</p> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
18	小売業ビジネスプロセスと情報システムの基礎知識	2017/08/28(月)	秋葉原ビクター	<p>今日の小売業のビジネスプロセスの基礎知識と関連情報システムの基礎知識を学習して頂きます。</p>	<p>小売業のビジネスプロセスと関連情報システム等の基礎知識を習得できる。</p>	<p>小売業向けソリューションの営業担当者やシステム技術職</p>	<p>1. 専門店等を対象とした小売業のビジネスプロセスとプロセス間連携 2. ビジネスプロセスを支援する関連情報システム等の機能 3. その他関連事項</p> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>

19	販売・仕入管理の基礎知識	2017/11/17(金)	NJC本社西新宿5丁目会場	<p>本研修講座は、製品・商品販売ビジネスに係る受注、在庫引当、出荷、請求、回収一連の販売管理プロセス、発注、在庫管理、検収、支払の仕入管理プロセスの要件定義、システム開発に係る方に必要な基礎的な業務プロセスの知識を学習して頂く研修コースです。</p> <p>広範な知識の理解度を確認するための理解度テストが用意されています。</p>	<p>①販売、仕入管理の現状と改革要求分析、業務フロー作成に必要な業務知識を習得して頂きます。</p> <p>②販売、仕入業務から財務会計に連携する情報要件を習得して頂きます。</p> <p>③販売、仕入管理業務の現状と改革要求の分析事項を調査シートで進める手順を習得して頂きます。</p> <p>④販売、仕入管理システムの基礎的なシステム機能要件を学習していただきます。</p> <p>⑤販売、仕入管理業務プロセスのパフォーマンスを評価するためのKPI(重要な成果指標)を習得して頂きます。</p> <p>⑥グローバル化対応に必要な販売と連携する経理の基礎知識を習得して頂きます。</p>	<p>・販売、仕入管理情報システム企画、開発を担当するSI企業の、営業、システム開発担当者</p> <p>・ユーザ企業のシステム企画、開発、運用担当者</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>販売管理の機能体系</li> <li>見積プロセス</li> <li>与信管理</li> <li>国内受注プロセス</li> <li>在庫品出荷指示</li> <li>出荷に対するトレーサビリティ</li> <li>受注に対応する生産指示</li> <li>メーカーへの直送指示</li> <li>受発注EDI</li> <li>売上/売掛金計上要件</li> <li>消費税計算要件</li> <li>売上返品計上の要件</li> <li>売上リベート取引要件</li> <li>自動会計仕訳の機能</li> <li>売掛金管理、受取手形管理</li> <li>請求、入金プロセス要件</li> <li>販売情報の活用</li> <li>KPI活用による定量効果分析</li> <li>販売管理現状分析のツールの使い方</li> <li>仕入管理の機能体系</li> <li>仕入/買掛金計上要件</li> <li>消費税計算要件</li> <li>仕入返品計上の要件</li> <li>仕入リベート取引要件</li> <li>自動仕訳の機能</li> <li>買掛金管理、支払手形管理</li> <li>支払プロセス要件</li> <li>仕入管理現状分析の仕方</li> </ol> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
20	販売・仕入管理の応用知識	2017/11/24(金)	秋葉原ビクター本社	<p>本研修講座は、製品・商品販売ビジネスに係る受注、在庫引当、出荷、請求、回収一連の販売管理プロセスの構築、システム開発に係る方に必要な基礎知識に続く上級レベルでの業務プロセスの知識を学習して頂く研修コースです。</p>	<p>①販売管理の現状と改革要求分析、業務フロー作成に必要な専門的な業務知識を習得して頂きます。</p> <p>②販売管理業務の現状と改革要求の分析事項を調査シートで進める手順を習得して頂きます。</p> <p>③販売管理システムの専門的なシステム機能要件を学習していただきます。</p>	<p>・販売管理情報システム企画、開発を担当するSI企業の、営業、システム開発担当者</p> <p>・ユーザ企業のシステム企画、開発、運用担当者</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>販売予算の編成</li> <li>原価見積プロセス</li> <li>見積情報、失注情報の活用</li> <li>与信管理上級</li> <li>グローバル取引の基礎知識</li> <li>収益認識、売上計上基準</li> <li>消費税計算上級</li> <li>クレジットカードによる売上処理</li> <li>為替変動による外貨建て売掛金評価</li> <li>ファクタリングによる売掛金の譲渡・回収</li> <li>電子債権のプロセスと機能</li> <li>販売管理と内部統制</li> </ol> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
21	物流と物流原価管理の基礎知識	2017/12/12(火)	秋葉原ビクター本社	<p>荷主の視点に立った物流プロセスに対応する基本的な要件と用語知識、原価管理要件を学習して頂きます。</p>	<p>・物流プロセスの機能構成</p> <p>・物流プロセスの業務用語の知識</p> <p>・物流プロセス一貫の原価管理要件の基本的な事項を習得して頂きます。</p>	<p>企業のサプライチェーンの一環としての物流の役割を理解する必要がある営業職、システム技術職</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>物流システムの役割と構成</li> <li>輸送システムの機能と原価要素</li> <li>保管システムの機能と原価要素</li> <li>物流のKPI <ol style="list-style-type: none"> <li>上位機能に対する役割のKPI</li> <li>物流システム内部の機能的KPI</li> </ol> </li> <li>その他の関連事項</li> </ol> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
22	グローバル取引の基礎知識	2017/11/28(火)	NJC本社西新宿5丁目会場	<p>産業経済のグローバル化が進む中で、グローバル取引固有の規制や高流・物流・情報システムの連携構成を学習して頂きます。</p>	<p>輸出入取引の高流・物流・決済流、関税制度、税制の基礎的な知識を習得して頂きます。</p>	<p>グローバル取引の最小限の知識が必要なシステム技術者</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>輸出入取引の高流と用語の知識</li> <li>輸出入取引の物流と用語の知識</li> <li>輸出入取引の決済流と用語の知識</li> <li>関税の知識</li> <li>その他の関連事項</li> </ol> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p>
23	消費財卸売業ビジネスプロセスの基礎知識	2018/01/29(月)	秋葉原ビクター本社	<p>食品・日用雑貨などの消費財卸売業を担当するにあたって業務プロセスに関する知識を原理的に理解している(なぜ、そのような業務プロセスが存在しているのかを理解)</p>	<p>本研修で理解した基礎知識の上に、自己が体験した顧客の要求事項が応用的な知見として積上げられる。</p>	<p>食品・日用雑貨などの消費財卸売業界や隣接業界を担当するS M、SEなど</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>卸売業ランニングに見る消費財卸売業の変遷</li> <li>ビジネスプロセスの機能構成と特徴</li> <li>主要業務プロセスとシステム化 <ol style="list-style-type: none"> <li>受発注管理</li> <li>ロジスティクス(入出荷・在庫・ロケーション管理)</li> <li>売掛・買掛管理</li> <li>利益管理</li> <li>営業支援</li> </ol> </li> </ol> <p>※研修カリキュラムの内容が一部変更される場合もあります。</p> <p>※講師は佐々木信也氏となります。</p>